

生涯学習に関するアンケート 調査結果

平成 30 年 11 月

島田市社会教育課

1 調査の目的

この調査は、平成20年に策定した島田市生涯学習推進大綱を改定するにあたり、市民の生涯学習への意識や取組みの現状を把握し、今後における本市の生涯学習施策方針の参考とするために実施しました。

2 調査対象者及び配布方法

島田市内の公民館等生涯学習施設（9施設）の利用者で、島田市主催講座・学級及び自主グループに対し、調査期間中に施設利用した方

3 調査期間

平成30年7月1日～平成30年7月31日

4 回収状況

1,652枚

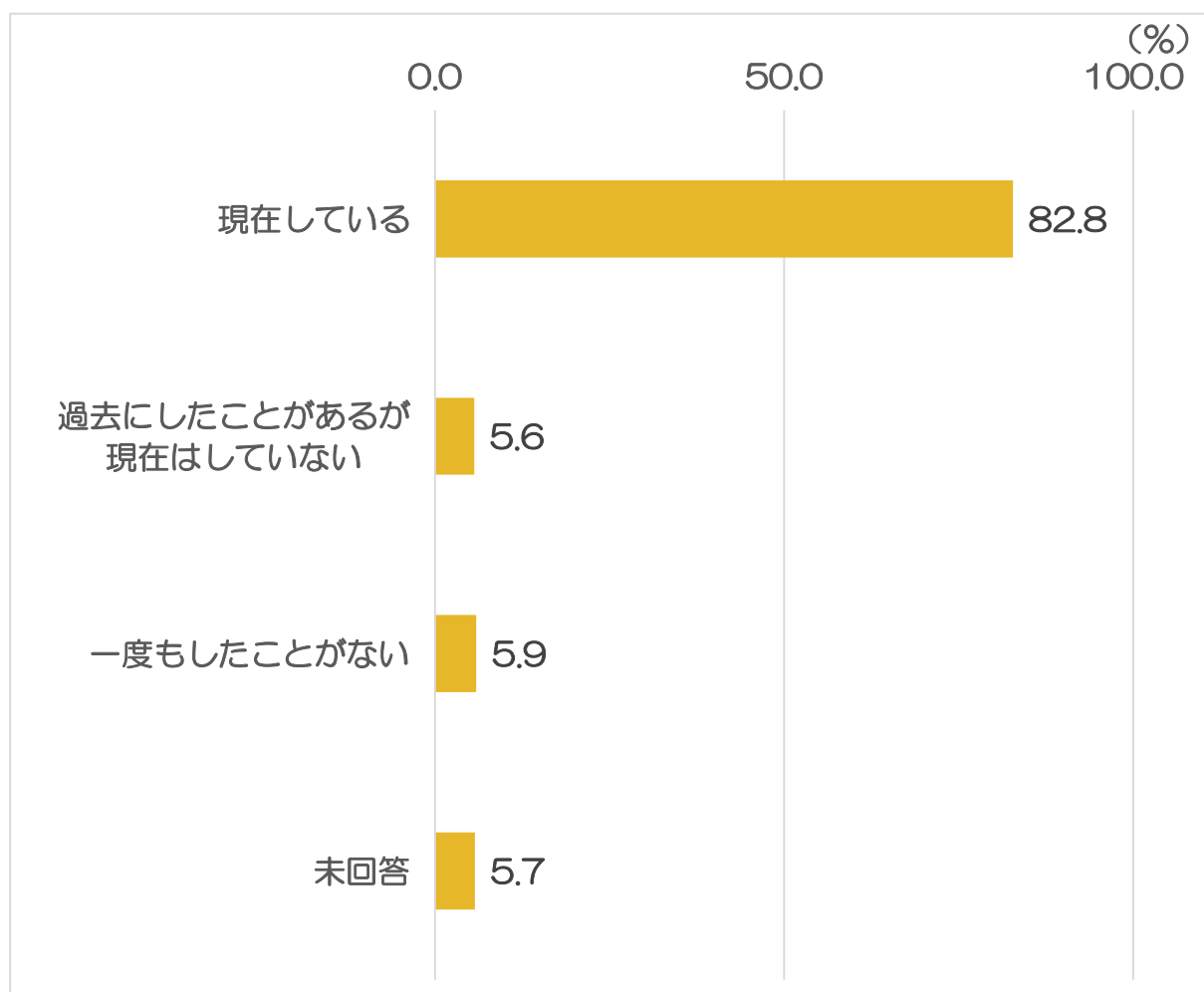
5 留意事項

- ・質問によって複数選択を可能としているため、集計結果の比率合計が100%となりません。
- ・生涯学習についての意見・要望は、今後の島田市生涯学習推進および関連施設運営の参考とさせていただきます。

問1 あなたは、これまでに生涯学習をしたことがありますか。

公民館利用者を対象にアンケートを実施しており、自身が行っていることが“生涯学習”であると認識しているため、ほとんどが「現在している」となっています。

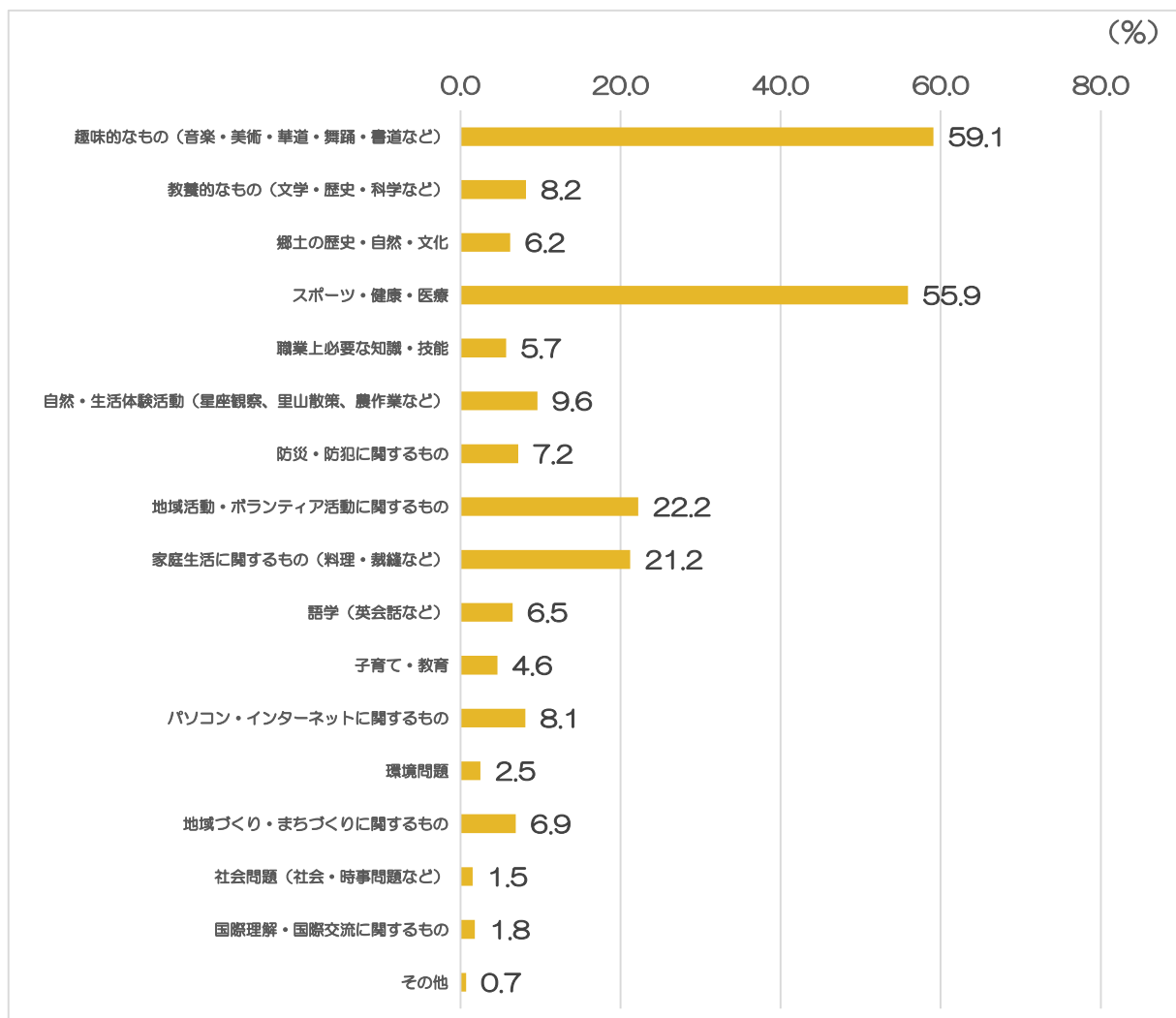
利用者の中には、会議等で公民館を使用しているだけの人もいますが、生涯学習の定義を広く捉え、日常生活での学びや地域活動においても生涯学習によるものと認識できるように努める必要があります。



問2 どのような学びをしていますか（していましたか）。

「趣味的なもの（音楽・美術・華道・舞踊・書道など）」の割合が59.1%と最も高く、次いで「スポーツ・健康・医療」（55.9%）となり、個人的なもので、自己を高めるための学びの割合が高くなりました。

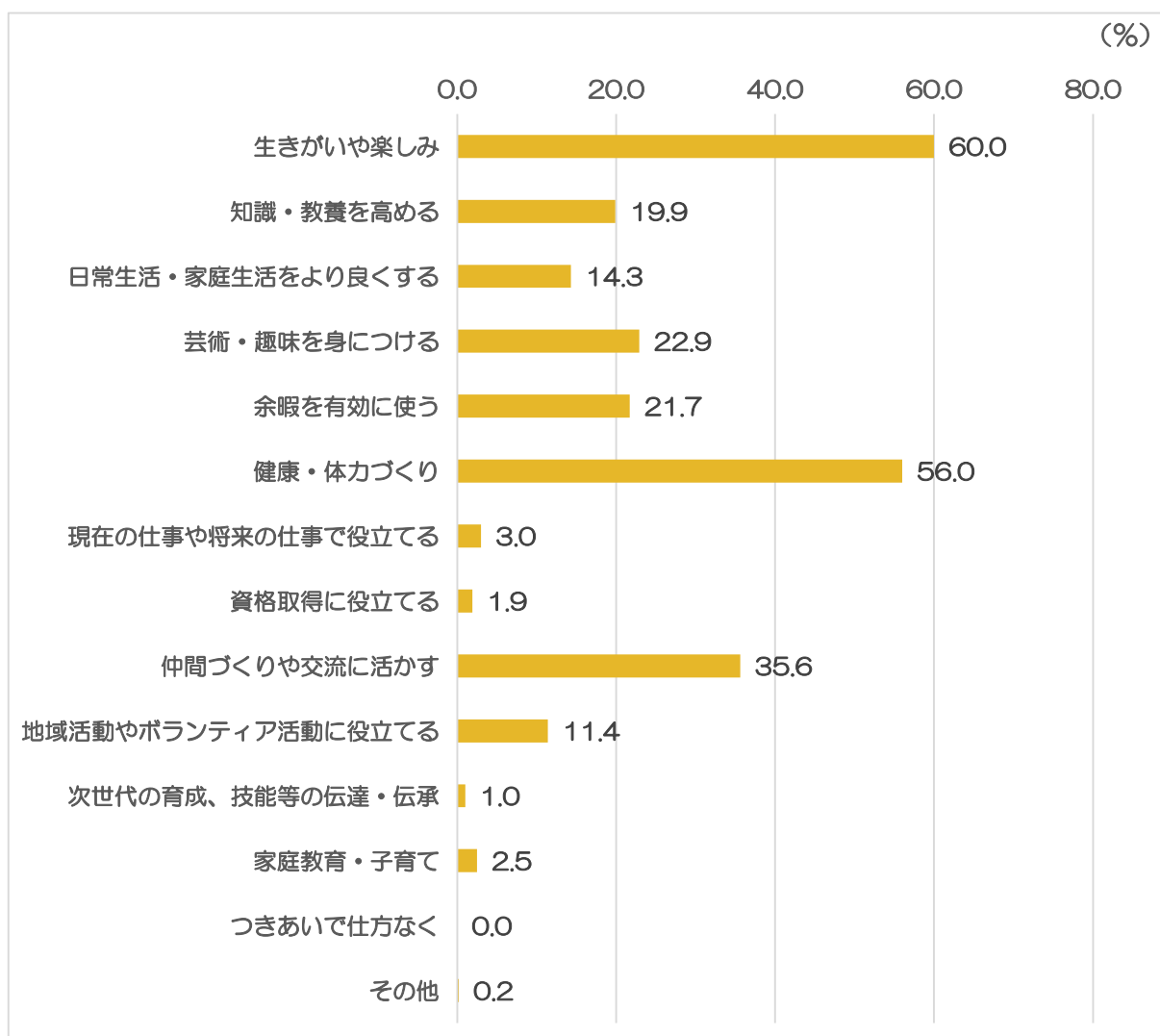
次いで、「地域活動・ボランティア活動に関するもの」（22.2%）、「家庭生活に関するもの（料理・裁縫など）」（21.2%）となっており、地域活動・ボランティア活動等の特定のグループにおける活動も割合が高いことがわかります。



問3 生涯学習をしている（していた）主な理由は何ですか。

「生きがいや楽しみ」の割合が60.0%と最も高く、次いで「健康・体力づくり」（56.0%）、「仲間づくりや交流に活用する」（35.6%）となっています。

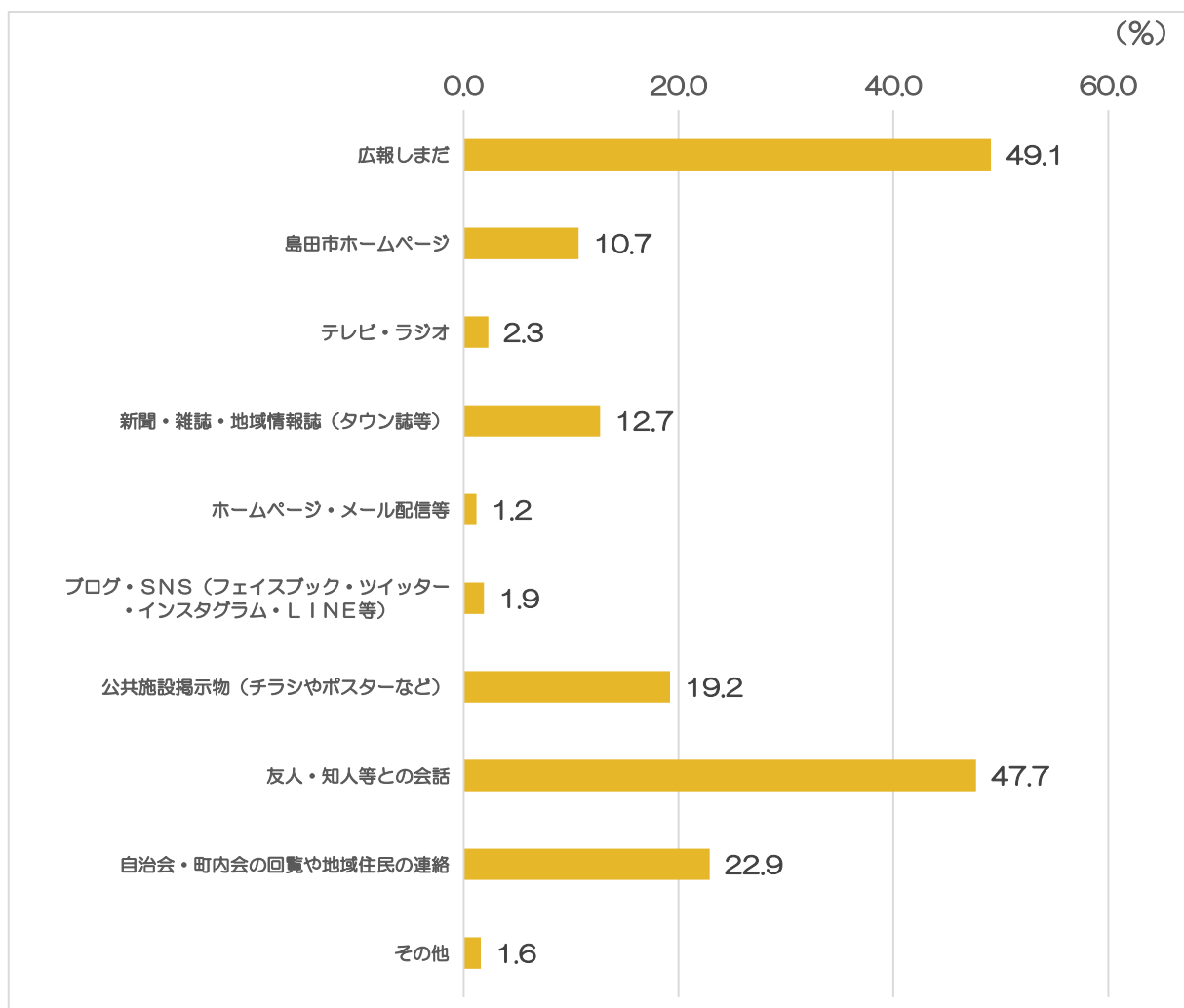
個人的な理由がほとんどですが、他者とのかかわりを持つことに理由を求めている人も3人に1人以上いることとなります。また、「地域活動やボランティア活動に役立てる」ことを理由にしている人も多いことから、地域に還元する意識を持っている人もいることが分かります。このことから、個人の生きがい・健康づくり等の手段とするだけでなく、より多くの方が地域づくり等に活用していくよう感じてもらえる環境づくりに取り組んでいく必要があります。



問4 生涯学習に関する情報を、主にどのような手段で入手していますか（していましたか）。

「広報しまだ」の割合が49.1%と最も高く、次いで「友人・知人等との会話」（47.7%）となっています。

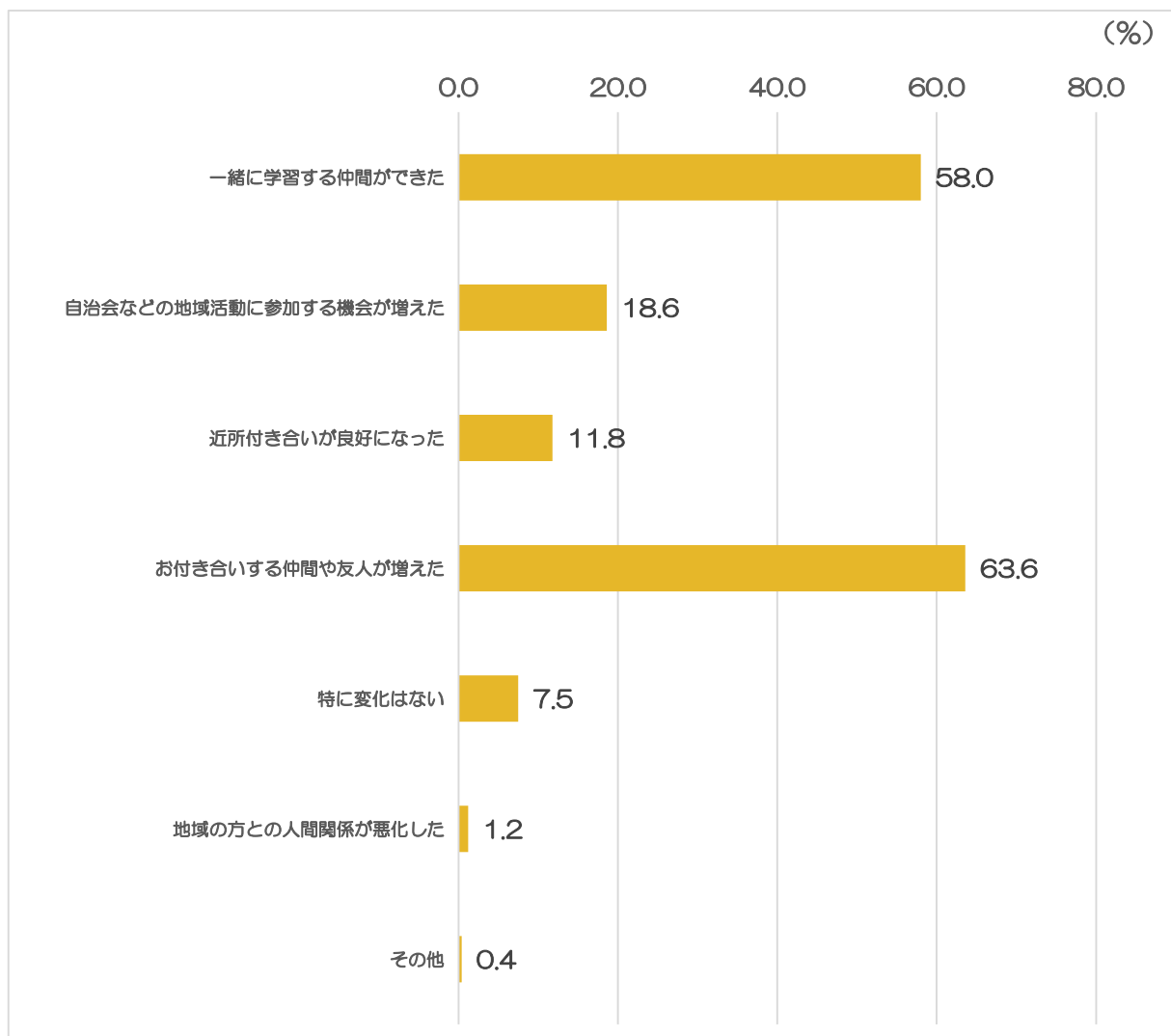
「広報しまだ」などの紙媒体での情報取得が主流となっていますが、インターネットの普及により、今後は通信機器を利用した情報の取得も増加傾向になると思われます。実際にホームページからの閲覧で情報取得する人も少なくありません。紙媒体でも電子媒体でも、情報量が不足したり不便を感じたりすることなく、引き続き、「広報しまだ」などの紙媒体での情報提供に力を入れていくと共に、市ホームページなどの電子媒体も見やすいように作っていく必要があります。



問5 生涯学習活動を通じて、地域等での人付き合いに変化がありましたか。

「お付き合いする仲間や友人が増えた」の割合が63.6%と最も高く、次いで「一緒に学習する仲間ができた」（58.0%）、「自治会などの地域活動に参加する機会が増えた」（18.6%）となっています。

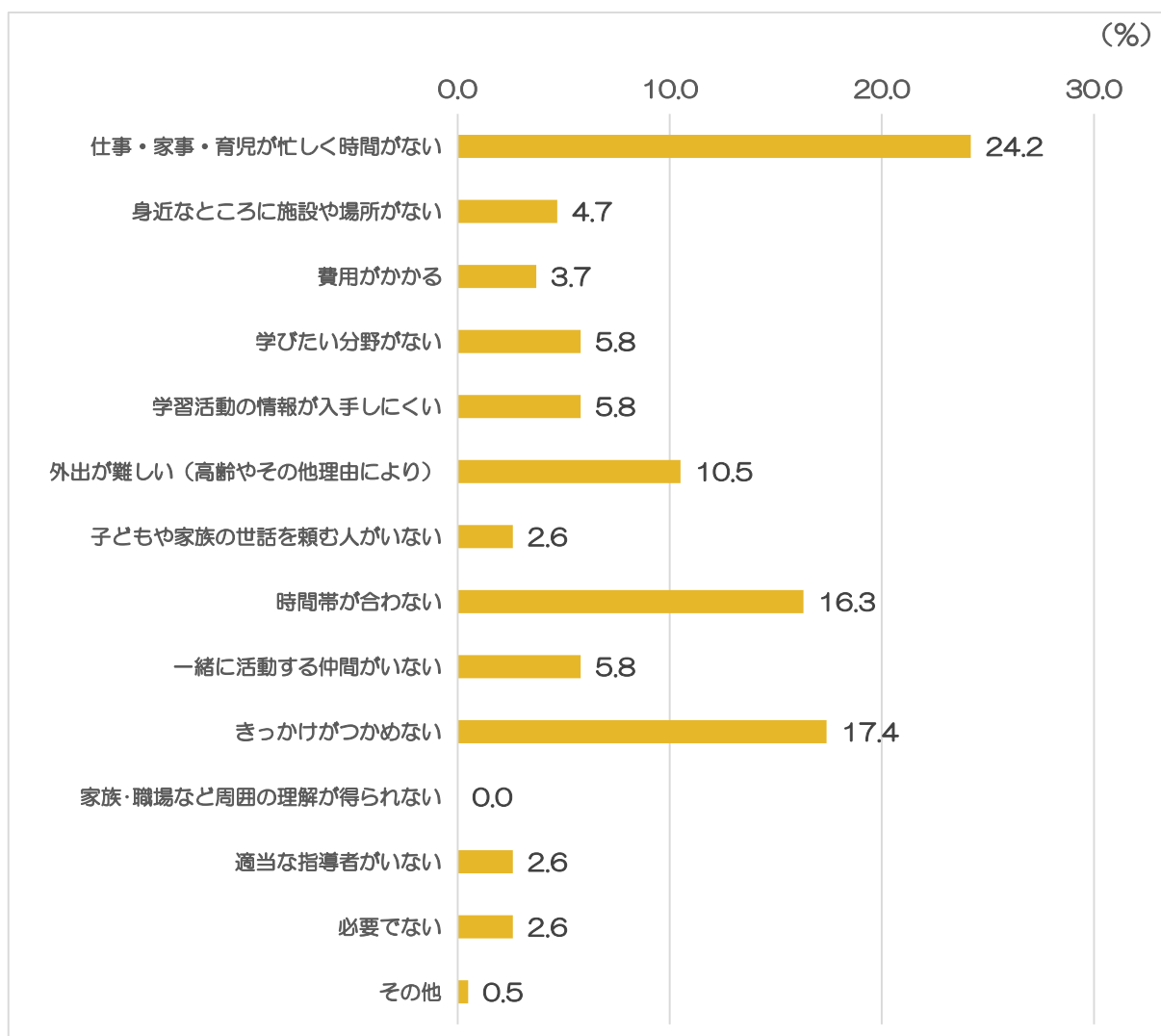
ほとんどの人が生涯学習を通じて人付き合いが豊かになったと感じており、学びが周り自分をつなぐ役割を担っていることが分かります。また、「自治会などの地域活動に参加する機会が増えた」という人も一定数おり、生涯学習を行うことによって、地域づくりに貢献している現状が見受けられます。



問6 現在生涯学習をしていない主な理由は何ですか。

問1で「一度もしたことがない」「未回答」と回答された方に理由を確認したところ、「仕事・家事・育児が忙しく時間がない」の割合が24.2%と最も高く、次いで「きっかけがつかめない」（17.4%）、「時間帯が合わない」（16.3%）となっています。

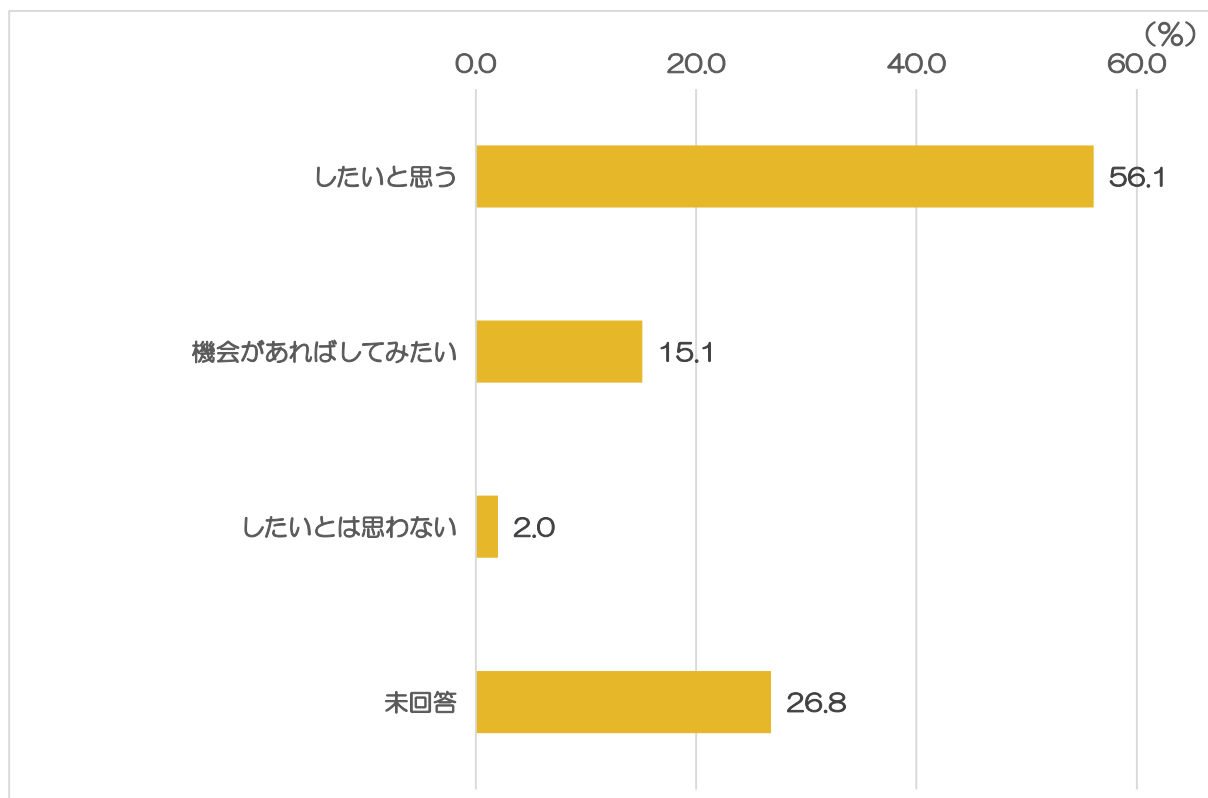
時間の制約を受けることが大きい理由のひとつですが、きっかけがつかめないことを理由とする人も多いため、生涯学習の必要性や意義を周知することに加え、誰でもいつでも参加できるような環境をつくることが重要です。



問7 今後生涯学習をしたいと思いませんか。

「したいと思う」の割合が56.1%、「機会があればしてみたい」の割合が15.1%になりました。どちらか一方でも選択した人は71.2%と高い割合となっています。

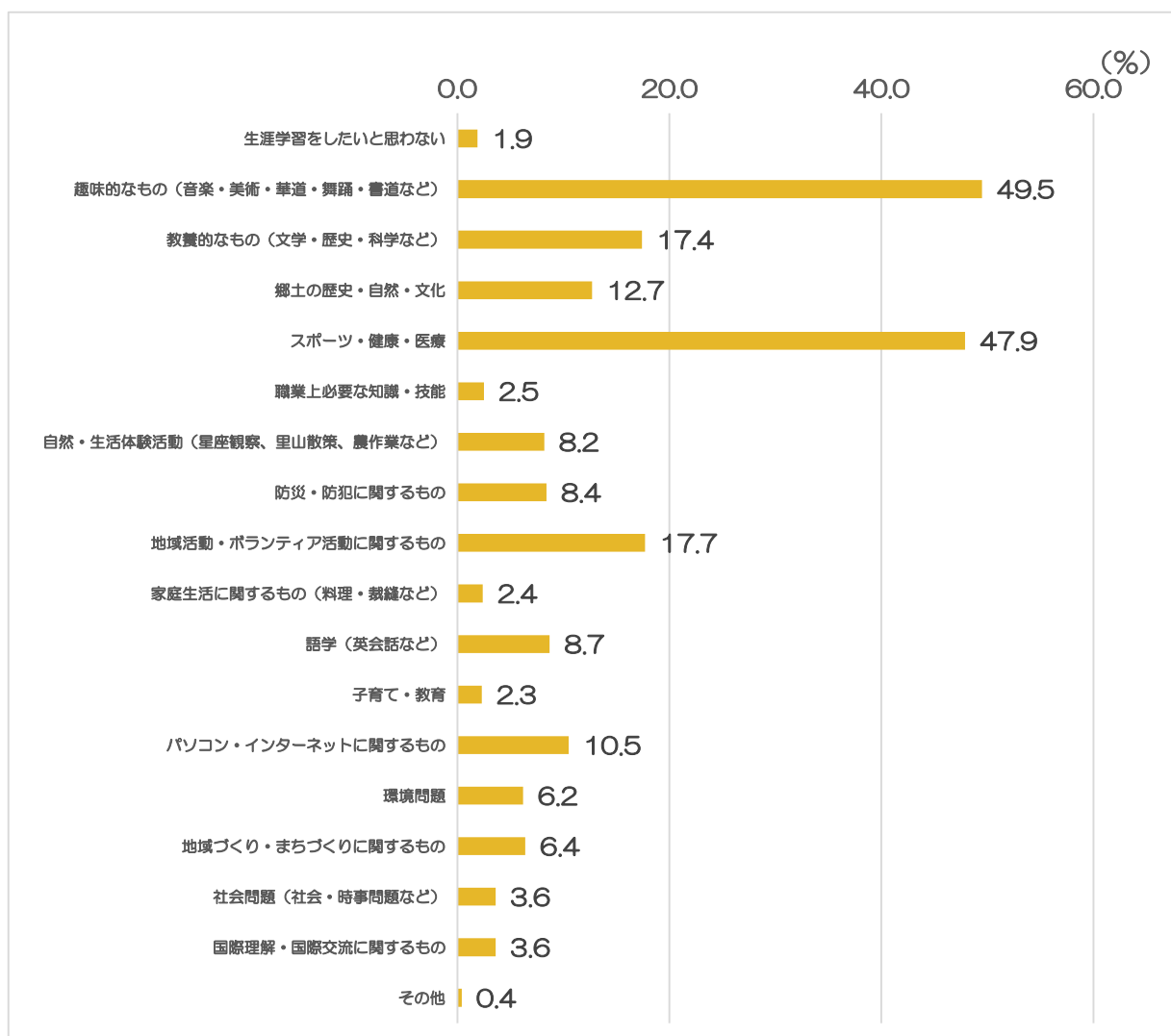
半数以上は生涯学習をしたいと感じており、意欲のある人が多いことが分かります。問18における生涯学習の必要性も高くなっていることから、行政では誰もが生涯学習を始めようと思うように、周知方法の検討や様々な学習の機会を設けるように考えていくことが求められています。



問8 今後、学んだり活動してみたいことは何ですか。

「趣味的なもの」の割合が49.5%と最も高く、次いで「スポーツ・健康・医療」（47.9%）、「地域活動・ボランティア活動に関するもの」（17.7%）となっています。

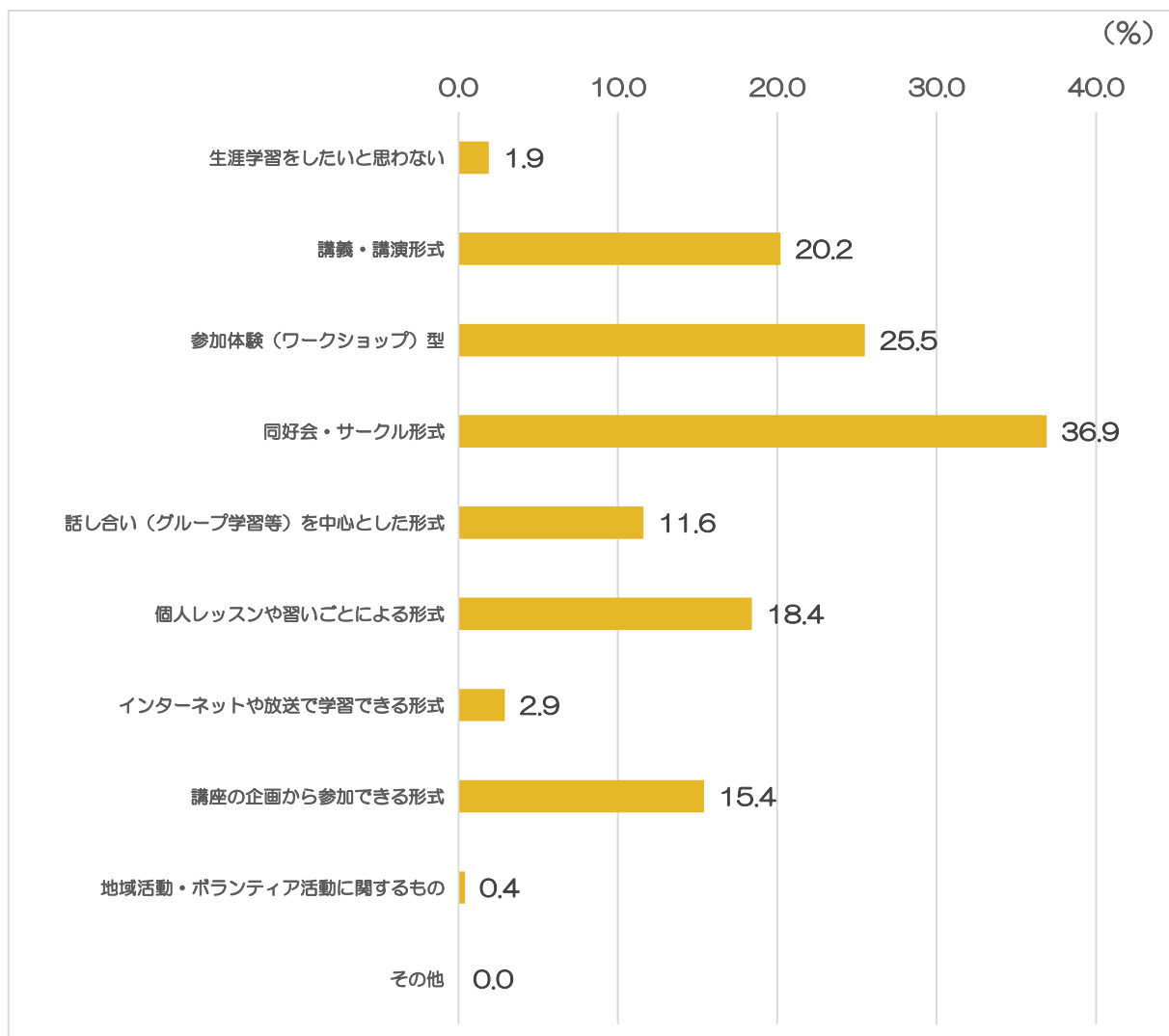
問2で聞いた、現在行っている学びの分野と比較すると、「教養的なもの」、「郷土の歴史・自然・文化」の割合が増えました。



問9 今後、どのような方法で生涯学習をしたいですか。

「同好会・サークル形式」の割合が36.9%と最も高く、次いで「参加体験（ワークショップ）型」（25.5%）、「講義・講演形式」（20.2%）となっています。

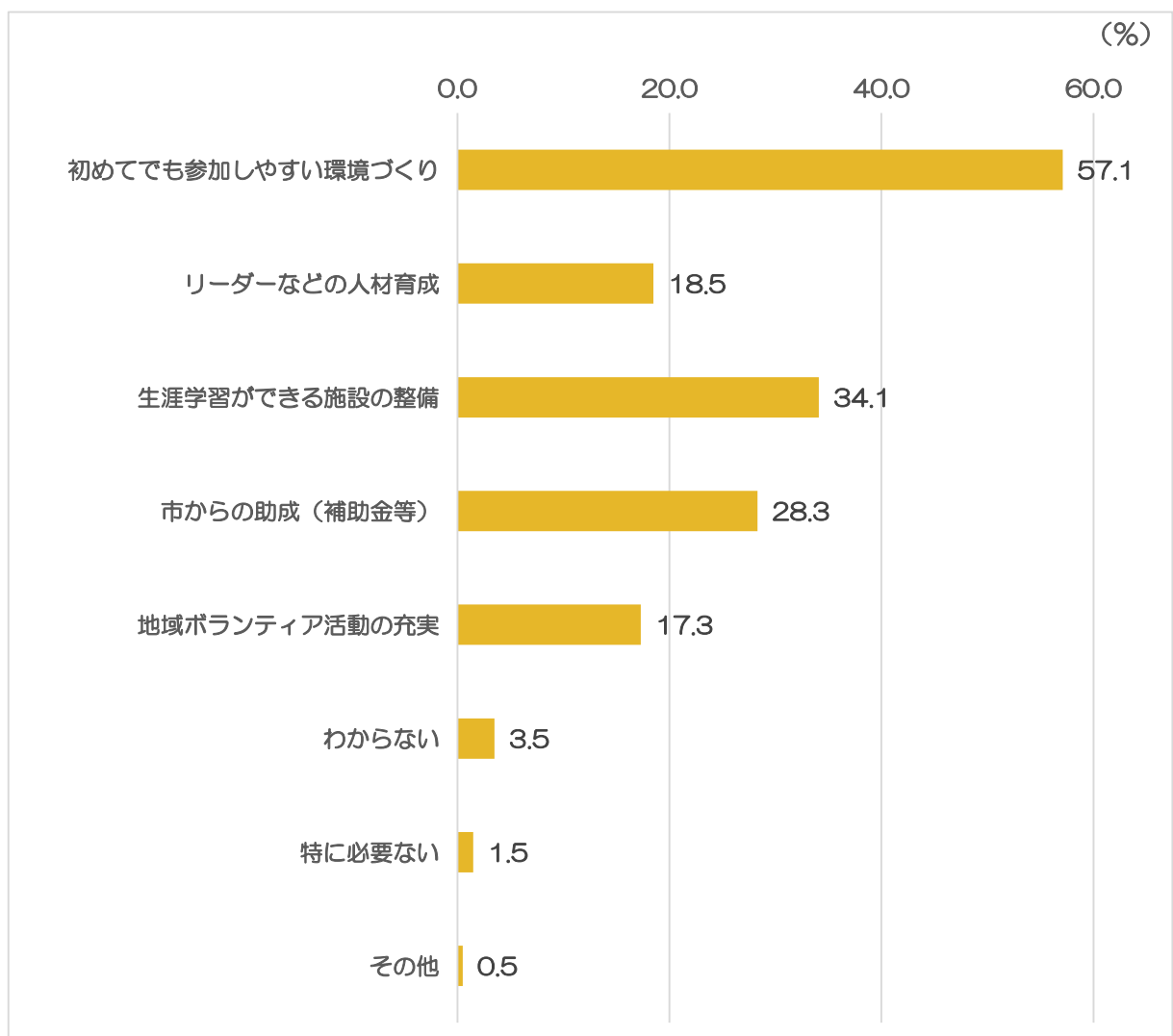
「講座の企画から参加できる形式」の割合も比較的高く、特定の学びではなく、多種多様な学びに対して意欲的なことが分かります。時代のニーズに応じた講座や形式を選択できるように、多様な学びのスタイルを検討し導入していかなければなりません。



問10 生涯学習を通して、地域をより活性化させるために必要と感じることは何ですか。

「初めてでも参加しやすい環境づくり」の割合が57.1%と最も高く、次いで「生涯学習ができる施設の整備」(34.1%)となっています。

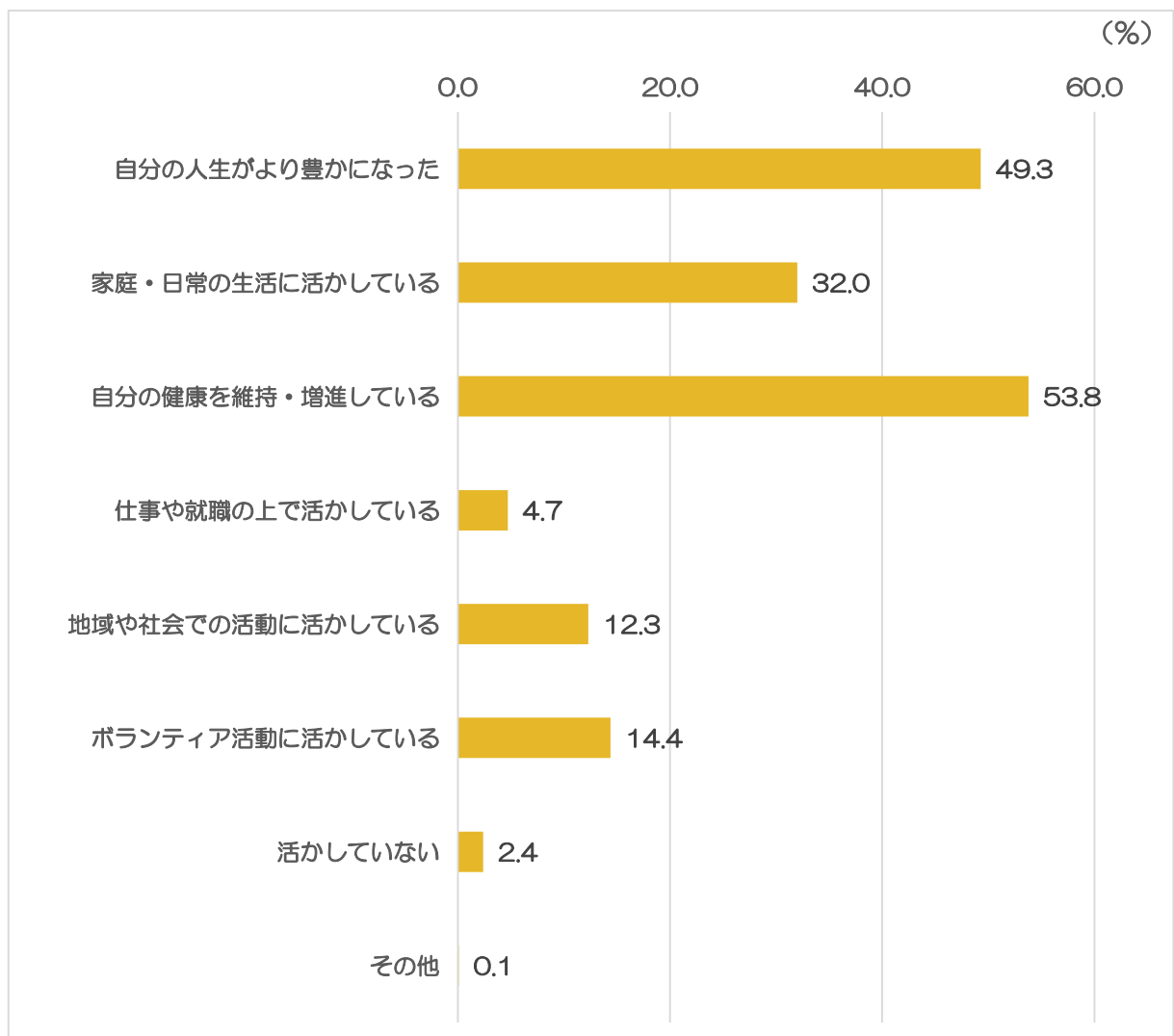
このことから、誰もが生涯学習をしやすい環境づくりに重点的に取り組むとともに、学習施設の充実等にも力を注ぎ、リーダーの育成について検討して地域の活性化を図っていく必要があります。



問11 生涯学習を通じて身につけた知識・技能や経験を、どのように活用していますか。

「自分の健康を維持・増進している」の割合が53.8%と最も高く、次いで「自分の人生がより豊かになった」（49.3%）、「家庭・日常の生活に活用している」（32.0%）となっています。

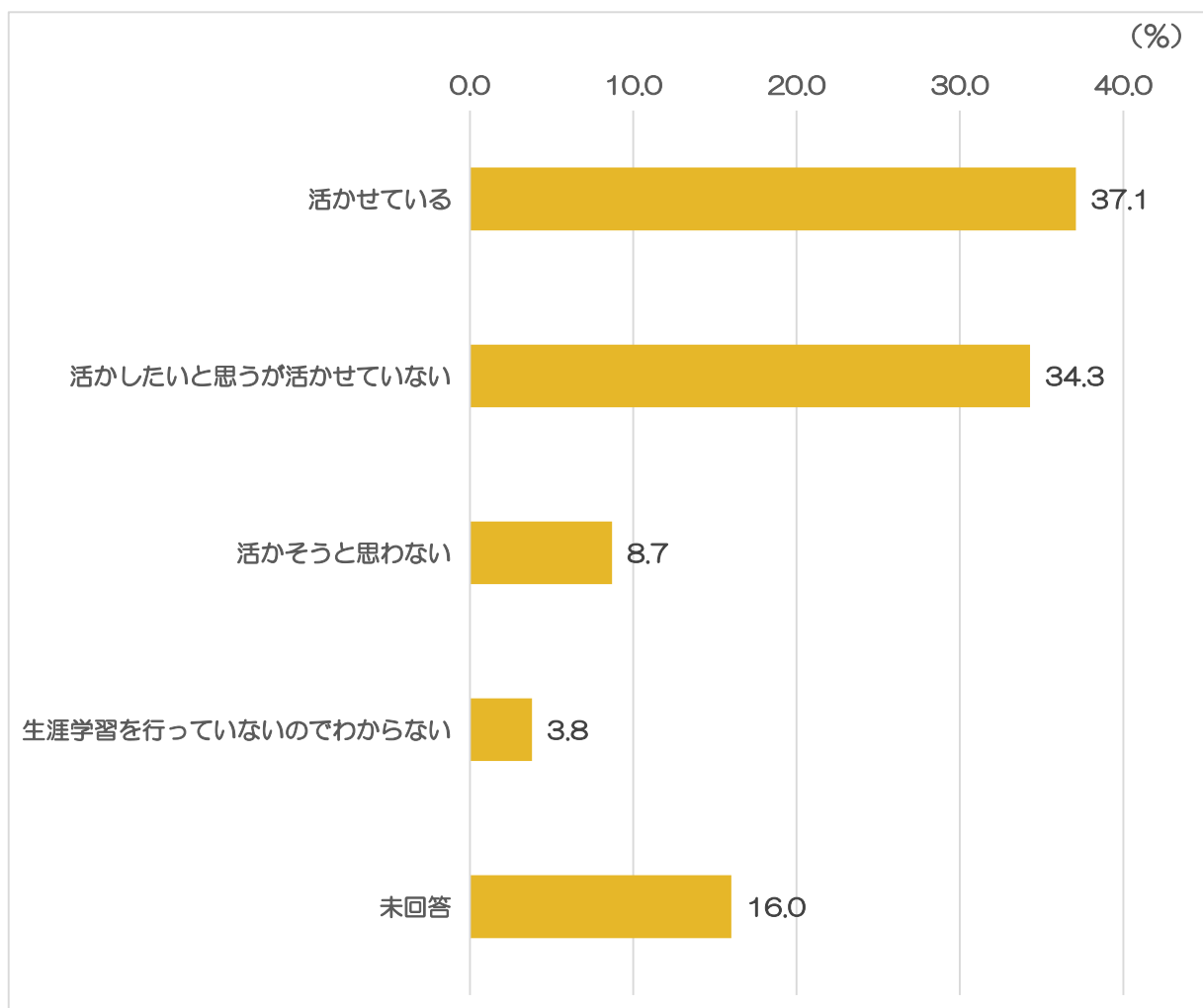
個人的な理由が大半を占めていますが、家庭で活用している人も多く、家族との関わりの中で生涯学習が活用されていると考えます。また、地域での活用も考えられるため、より一層地域に根差した学びの体系を広げていきたいと思えます。



問12 生涯学習で学んだことを地域や社会で活用したいと思いませんか。

「活用している」の割合が37.1%と最も高く、次いで「活用したいと思うが活用できていない」（34.3%）となっています。

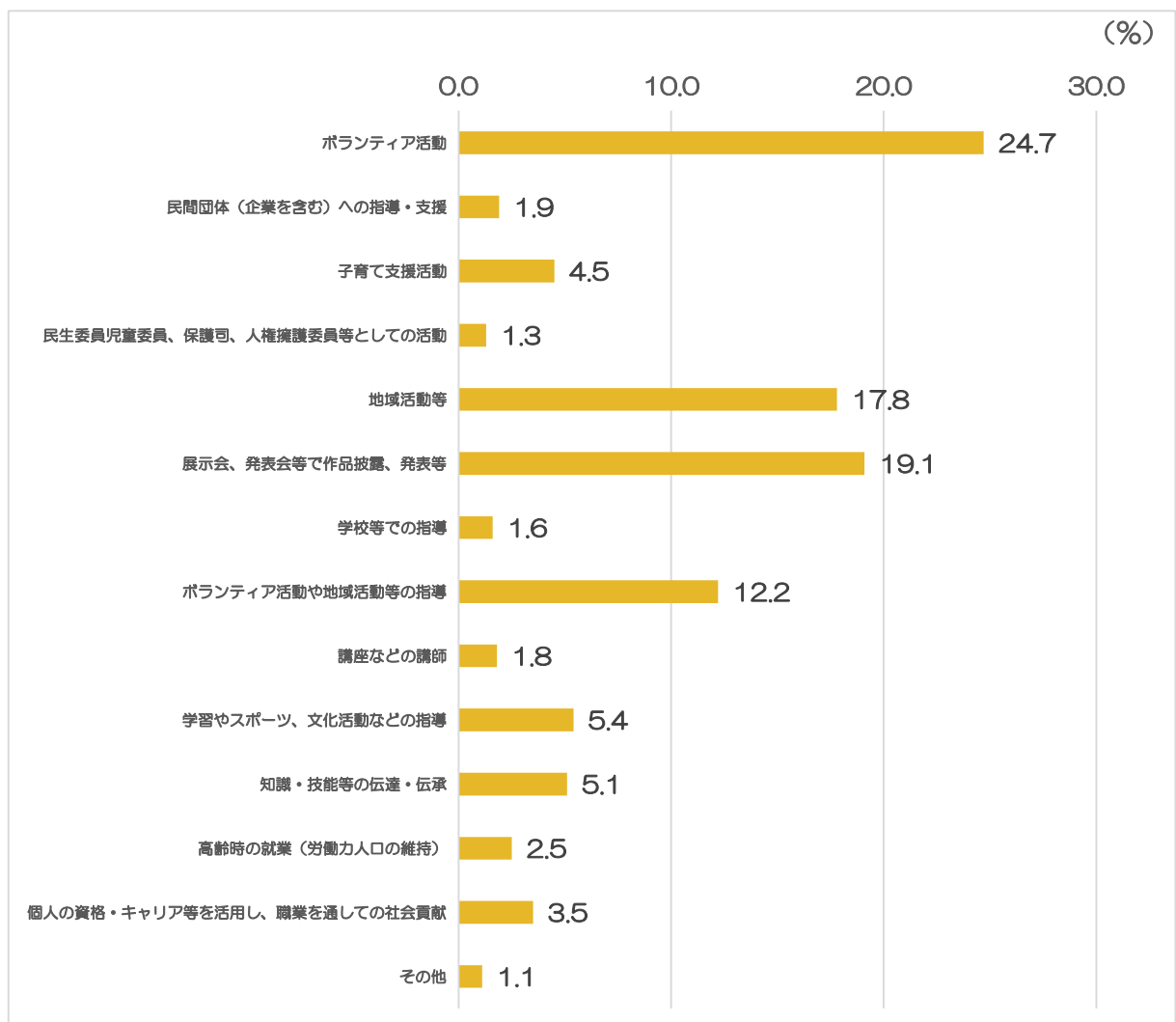
地域や社会に活用したいと感じている人が多いことが分かります。個人の生活に活用することや生きがいづくり等のために学ぶことは大切ですが、学んだことを地域や社会に活用することも重要であり、主体的な取り組みが豊かな地域社会を実現させ、また個人の学びへ繋がっていく「学びの循環」が形成されるものと考えます。



問13 生涯学習で学んだことを地域や社会で主にどのように活用している、又は活用したいと考えますか。

「ボランティア活動」の割合が24.7%と最も高く、次いで「展示会、発表会等で作品披露、発表等」（19.1%）、「地域活動等」（17.8%）となっています。

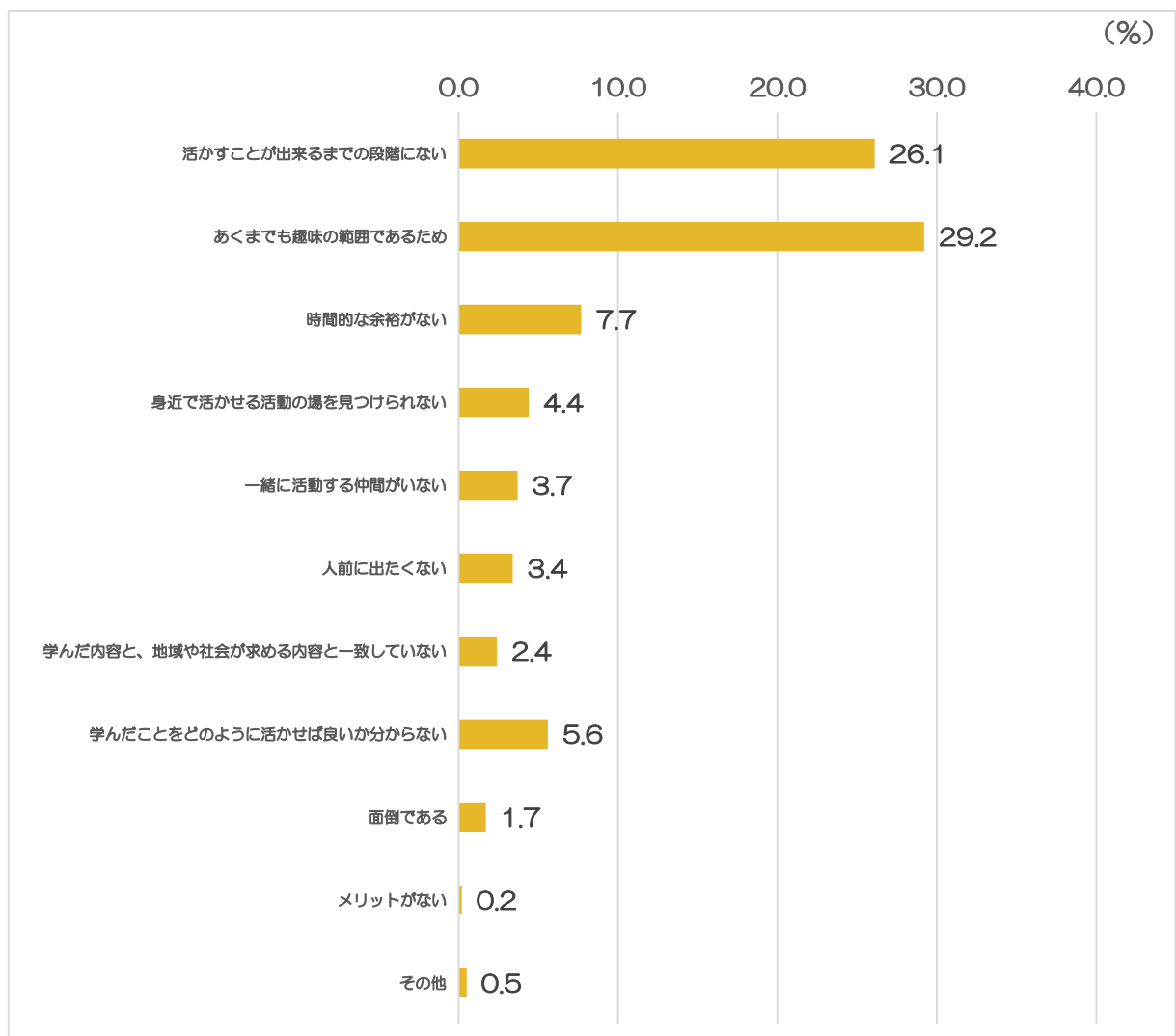
ボランティア活動や地域活動等が高い割合を占めていますが、展示会・発表会等で活動発表の機会も多くあるようです。活動発表だけでなく、知識・技能等の伝達・伝承や、各種活動への指導・支援なども選択できるような仕組みづくりが必要です。



問14 生涯学習で学んだことを地域や社会で活用できていない、又は活用しようと思わない理由は何ですか。

「あくまで趣味の範囲であるため」の割合が29.2%と最も高く、次いで「活用することが出来るまでの段階にない」(26.1%)となっています。

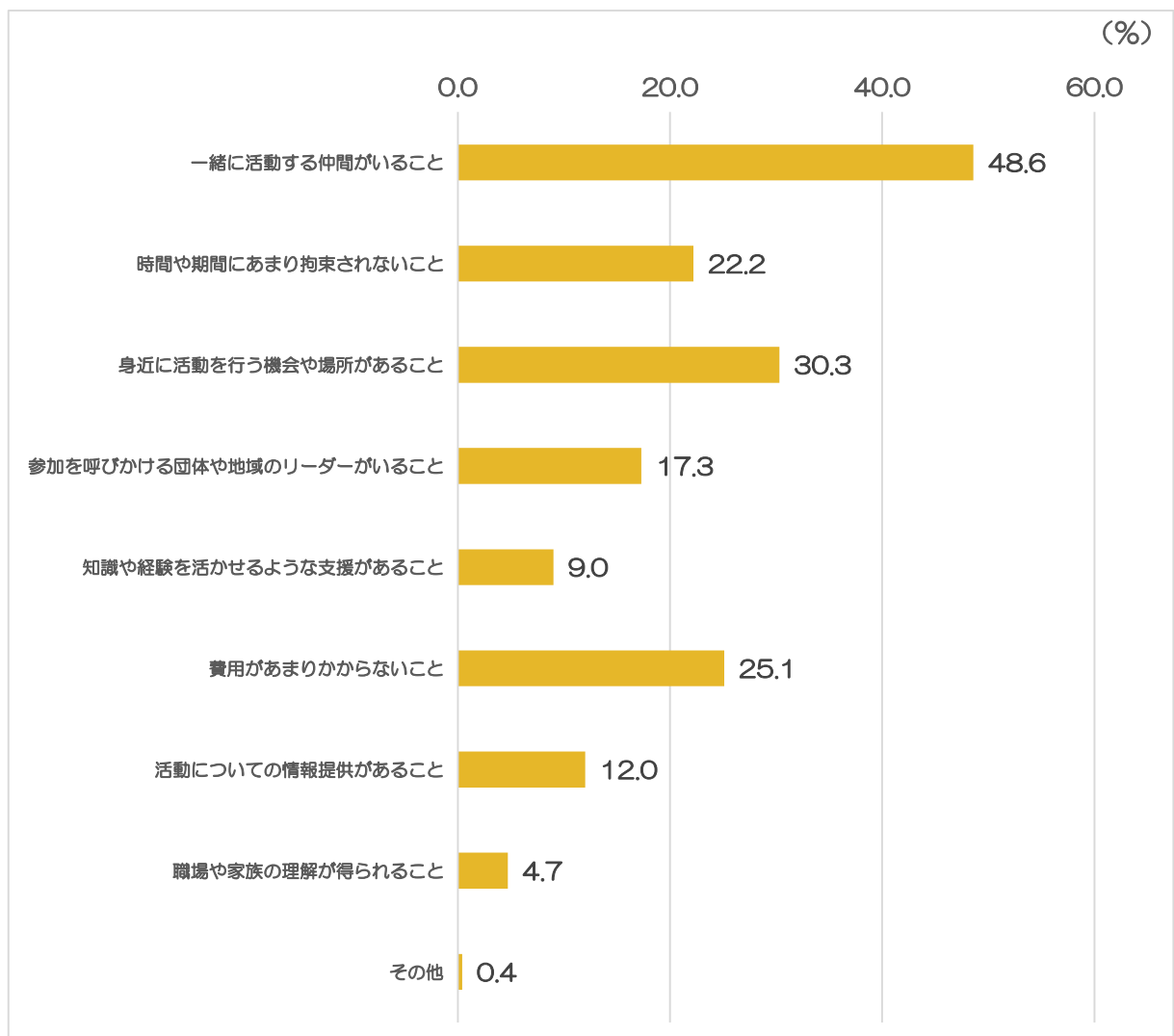
学びを活用することができる段階にまで引き上げるためには、継続的な学びの場の提供や、より高度な学びの提供が必要となります。また、「学んだことをどのように活用すれば良いか分からない」という回答については、生涯学習で学んだことを地域や社会で容易に活用できる仕組みづくりに取り組む必要があります。



問15 生涯学習で身につけたことを地域や社会での活動に活用するために、どのようなことが必要だと思いますか。

「一緒に活動する仲間がいること」が48.6%と最も高く、次いで「身近に活動を行う機会や場所があること」（30.3%）となっている。

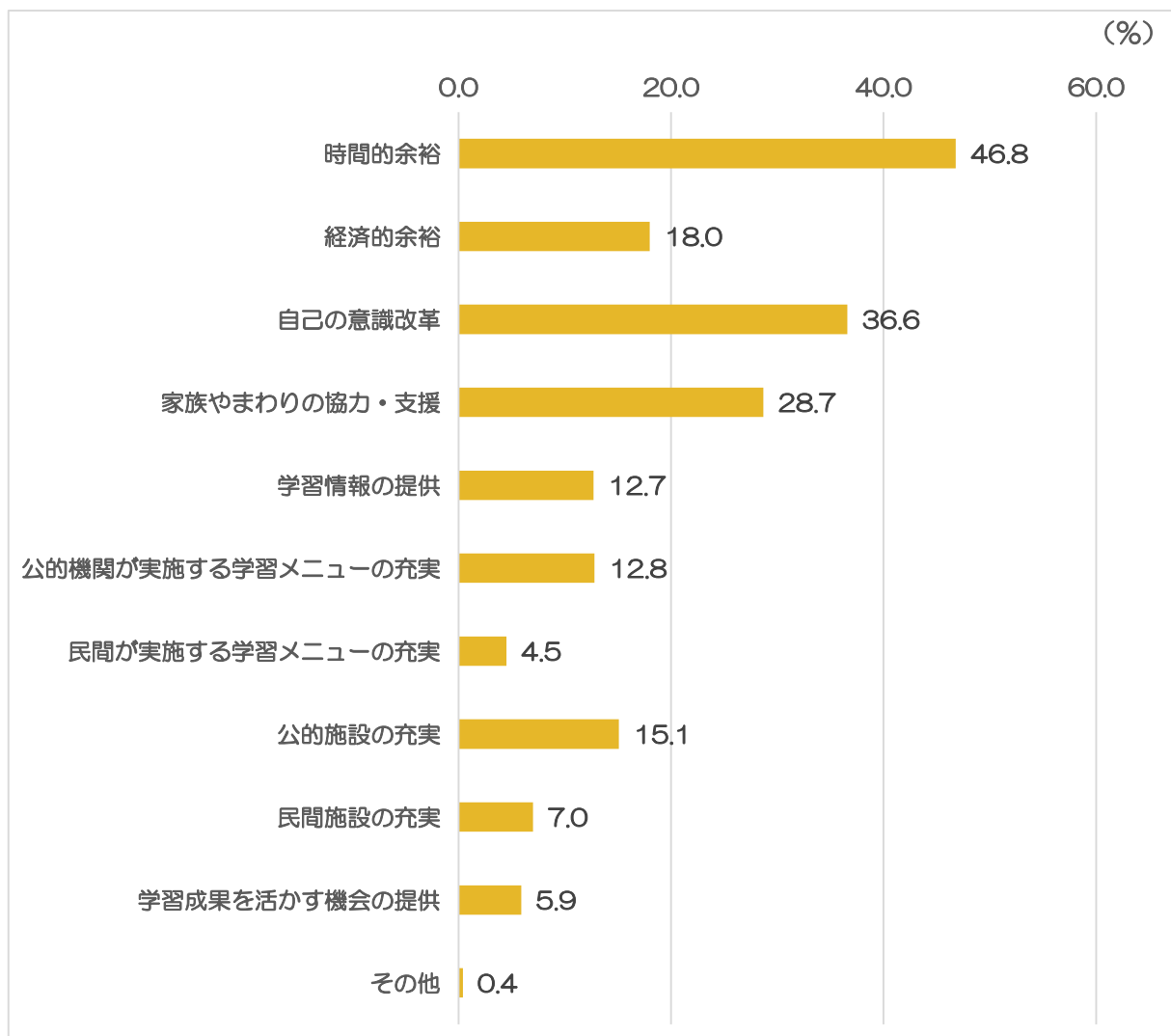
個人の学びの支援をすることは、一緒に学ぶ仲間づくりにもなります。アンケートにおいても割合が高く、また、地域づくりにおいても非常に重要な要素となります。個人の学びの支援が、結果的に生涯学習を地域や社会へ還元されていくと考えられます。



問16 生涯学習の充実、又は生涯学習を始めるには、主に何が必要と思いますか。

「時間的余裕」が46.8%と最も高く、次いで「自己の意識改革」(36.6%)、「家族やまわりの協力・支援」(28.7%)となっている。

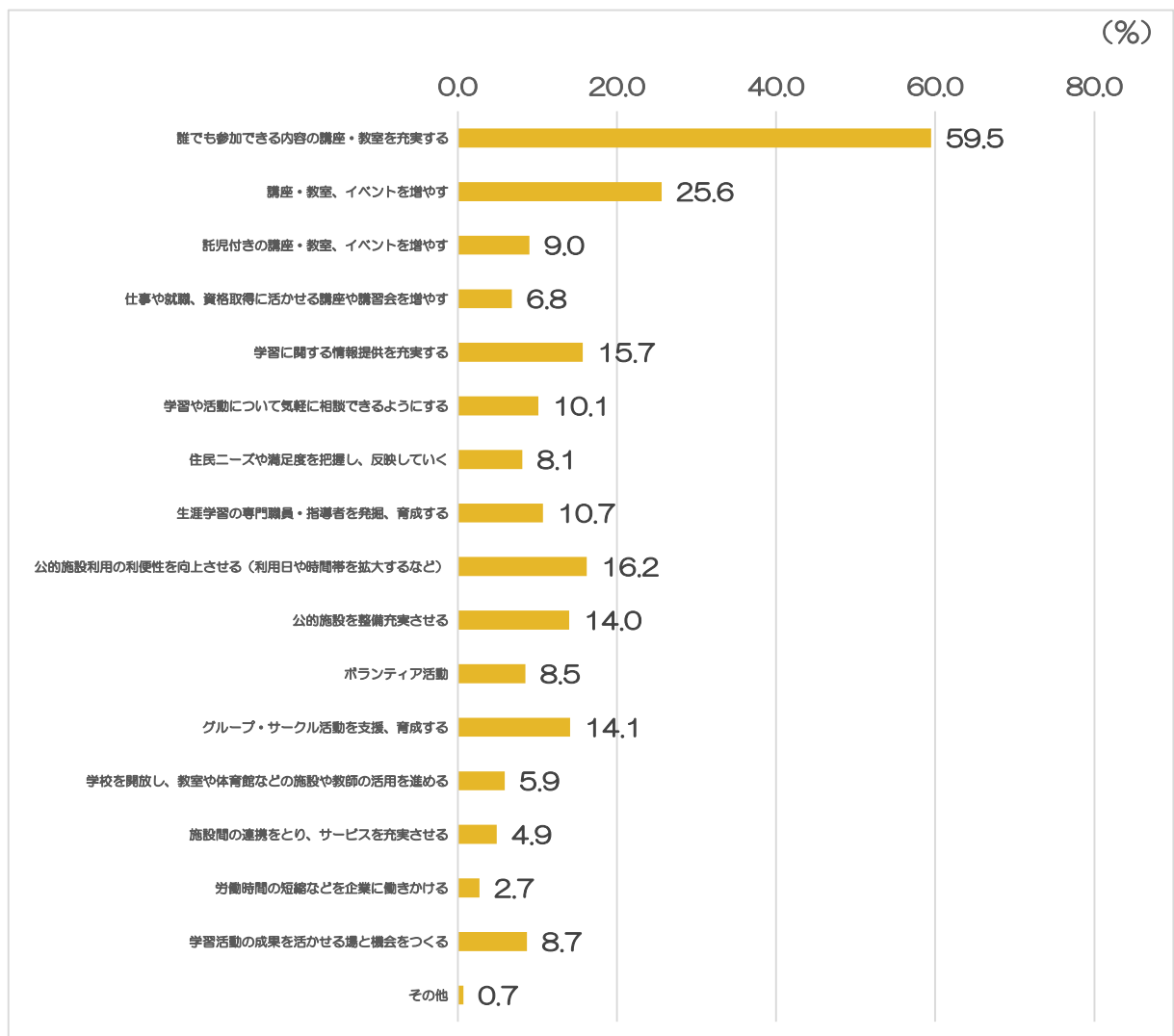
生涯学習の充実等を図るためには、時間的余裕や経済力、自己の意識など、個人的な事項を必要だと選択する割合が高くなっています。意識が学びに向くような施策があると、より多くの人々が生涯学習を実践できる環境ができ上がると考えます。また、「公的施設の充実」など、行政も役割を果たすことが重要です。



問17 今後、生涯学習をもっと盛んにしていくために、島田市はどのような具体的な取組みに力を入れるべきだと思いますか。

「誰でも参加できる内容の講座・教室を充実する」が59.5%と最も高く、次いで「講座・教室、イベントを増やす」(25.6%)となっている。

生涯学習の充実等を図るためには、誰でも参加できるように多種多様な講座・教室を開催することや、講座自体の回数を増やすことなど、基本的な施策が求められています。また、公的機関の整備充実を図り、利便性を向上させることも行政に求められています。また、10～50代の女性では「託児付の講座・教室、イベントを増やす」と回答した人が50%以上います。子育て世代の女性が学びに対して積極的に取り組むためにも、託児付の講座を実施していく必要があると考えます。



問18 あなたにとって、生涯学習は必要だと思いますか。

「必要である」もしくは「どちらかといえば必要である」を選択した人が82.1%となり、生涯学習の必要性に係る意識はかなり高いといえます。

今後も生涯学習に対する意識を高め、まちづくりにも不可欠な活動であることを強く周知・啓発していく必要があります。

